



# サッカー、ラグビー、そして蹴鞠

文部科学副大臣  
名譽顧問 藤井基之



九月十九日の夜は、第六回ラグビーW杯での日本代表チームの活躍に日本中が沸きました。三四対三二で、世界ランキング二位(二〇一五年八月時点)の南アフリカチームを、ランキング三位(同時点)の日本が破りました。世界中のラグビーマニアが驚いたようです。九本中七本のプレミアキックを決めた五郎丸歩選手はじめ、代表チームの果敢なプレイに、私もテレビの前で大興奮でした。

五郎丸選手がブレイスキックの前に、あの「ボールを回してから立て、後ろに三歩、横に二歩動き、蹴る位置についてから、右腕を振り、最後に、まるで祈るように両手を合わせて中腰になる」ルーティーン。キックを毎回同じ動作とするために行うようになったということですが、すっかりおなじみになりました。

ラグビーW杯は、スポーツイベントとしては、サッカーのFIFAワールドカップ、オリンピックに次ぐ三番目の規模の世界三大イベントの一つ。二〇一九年の第九回大会は東京開催が決まっており、これを機に、ラグビーもサッカーや野球に負けない人気スポーツになりそうです。

日本では、現在は、ラグビーよりサッカーの方が高いようです。特に、女子

日本代表チーム、なでしこ・ジャパンが、FIFA女子ワールドカップで優勝し、今年六月〜七月に行われたカナダ二〇一五大大会でも、決勝でアメリカに敗れましたが、準優勝という大活躍でした。男子の方は、アジアカップでベストエイトなど最近ちょっと振るいませんが、でも、今、FIFAワールドカップのアジア予選で奮闘中、頑張っしてほしいものです。

ところで、フットボール、というと私たち日本人は、サッカーを思い浮かべますが、サッカーもラグビーもフットボール。世界には様々なフットボールがあり、サッカー、ラグビーの他、アメリカンフットボールやオーストラリアンフットボール、カナディアンフットボール、ゲリックフットボール等々。フットボール、と言っても、その国や地域によって異なるそうです。これらのフットボールは、「指定された相手陣地のゴールにボールを蹴り込むこと」によって得点する」という基本ルールで共通しており、フットボール・ルールを総括して、フットボールコード(フットボール規則)と呼んでいるそうです。

人間というものは、ずいぶん昔からボールを蹴って遊ぶのが好きだったようです。紀元

前一五〇〇年くらいには、南米のアンデスやチリ、紀元前八〇〇年にはメキシコのマヤ遺跡などにボールを蹴る遊びがあったという記録があるそうです。また、古代エジプト、古代ギリシャ、古代ローマなどの遺跡からは足でボールを蹴っているような人物のレリーフが発見されているそうです。

中国では、紀元前三〇〇年ごろに蹴鞠(けまり)が宮廷内で行われていました。使用していた鞠は、鹿の皮に羽根などを詰め込んだもの、あるいは動物の膀胱に空気を入れた軽いものが使用されていたということです。この蹴鞠がモンゴルや東欧、そして東南アジア、そして日本にも六〇〇年代に伝えられ、平安時代に流行しました。ですから、中国の人たちは、サッカーの起源は中国にあると主張しているそうです。いざいざ以上前からあったのですかね。

近代フットボールは、英国で、サッカーやラグビーとして発展してきました。西暦三世紀ごろには、英国では、フットボールが教会の門などをゴールに見立てて盛んに行われていた記録があるそうです。十四世紀には時の国王がフットボールゲームの歓声や騒音が余りにもうるさい、また、死傷者まで出て危険だとして禁止令を出しまし

た。この禁止令は十七世紀まで三〇〇年も続きましたが、その禁止令の期間中もフットボールは続けられたということです。

ただ、十八世紀ごろまでのフットボールはまだ明確なルールや定義はなく、手を使ってドリブルしたり、手で扱うといった行為も反則ではありませんでした。しかし、ボールを持って走ること認められていませんでした。

そんな中、一八二三年、英国のパブリックスクール、ラグビー校でフットボールの試合中に、エリスという少年がボールを持って走り出し、一気にゴールまで駆け抜けてしまいました。これがラグビーの始まりだといわれています。真偽のほどは議論があるようですが、ラグビーの名前の起源は少なくとも、ラグビー校に由来するようです。一八六三年十月二十六日、ロンドンで、パブリックスクールや大学チームなどの関係者の「Association」と呼ばれる会のメンバーと、十二のクラブの代表者が集まって、フットボールの統一ルールを決める会議が

行われました。そこで、ボールを持って走ってよい、ボールを持って走っていない選手のスネを蹴っても、足を引っかけても構わないなど、今日のラグビーのルールを取り入れる案も提案されました。

サッカーを支持する人たちは、スネを蹴ったり、引っかけたりするような行為は危険だし、紳士的でない、と反対しましたが、ラグビー支持派は、ラグビーは紳士のスポーツである、試合が終わればどちらのサイドもない、「フーサイドの精神」が基本であると主張しました。会議の結果、フットボールは、今日のサッカーとラグビーに分化しました。ラグビーのルールが現在のようになり、完成したのは一八七一年のことだとされています。サッカーは、「Association Football」という意味で、Associationの「Soc.」を、それをブレイクする人という意味で「Soccer」、サッカーと呼ぶようになったそうです。

やがて、サッカー、ラグビーはイギリスからの移民とともに、アメリカ大陸にも伝わり、アメリカン・フットボールとして発展していききました。今やアメリカでは、アメリカン・フットボールは、バスケットボールや野球をもしのぐ最大の人気スポーツです。

ラグビーW杯のテーマ曲は「ワールド・イン・ユニオン (World in Union)」といいます。その歌詞は「信仰や人種を超えて世界が団結し、分かつことのできない一つになるという尊い真の夢。この偉大な夢の極みにいたるとき新しい時代が始まるだろう。そのためにあらゆる障害を乗り越え、尊厳をもって生きわたりなくすべての人が勝利者である。それが世界が一つになるということ。」という内容だそう。現在の国際環境を考えると、大変重要な法律ですが、こうした法律に頼らなくてもよい世界を作り出せるのはスポーツかもしれない。

## 藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>

- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー：薬物乱用のない社会)社会創りです。高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

### 活動報告

参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

### 経歴

- 昭和37年 岡山大学教育学部付属中学校卒業
- 昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
- 昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
- 昭和44年 厚生省入省
- 平成9年 厚生省退官
- 平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス 振興財団 専務理事
- 平成12年 日本薬剤師連盟 副会長  
社団法人日本薬剤師会 常務理事
- 平成13年 参議院議員(1期目)
- 平成16年 厚生労働大臣政務官  
(平成16年9月~平成17年11月)
- 平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
- 平成22年 参議院議員(2期目)
- 平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長
- 平成24年 自由民主党広報本部 副本部長  
広報本部新聞 出版局長
- 平成25年 自由民主党党紀委員会 委員  
裁判官弾劾裁判所 裁判員
- 平成26年 原子力問題特別委員会 委員長
- 現在 文部科学副大臣